

2.5 流行曲のイントロに関する傾向とその分析

[要旨]

近年の音楽市場の広がりには顕著なものになっており、流行曲を対象とした研究も行われているが、流行曲のイントロに関する研究は行われていなかった。そこで我々は、2016～2023年、1991～1998年の二つの期間における流行曲のイントロについて特徴を分析し、傾向等が見出せないか検討した。その結果、どの世代においてもイントロには恒常的な人気があるが、イントロに用いられる楽器の種類にはばらつきがあるなど、いくつかの傾向を見出すことができた。

[Abstract]

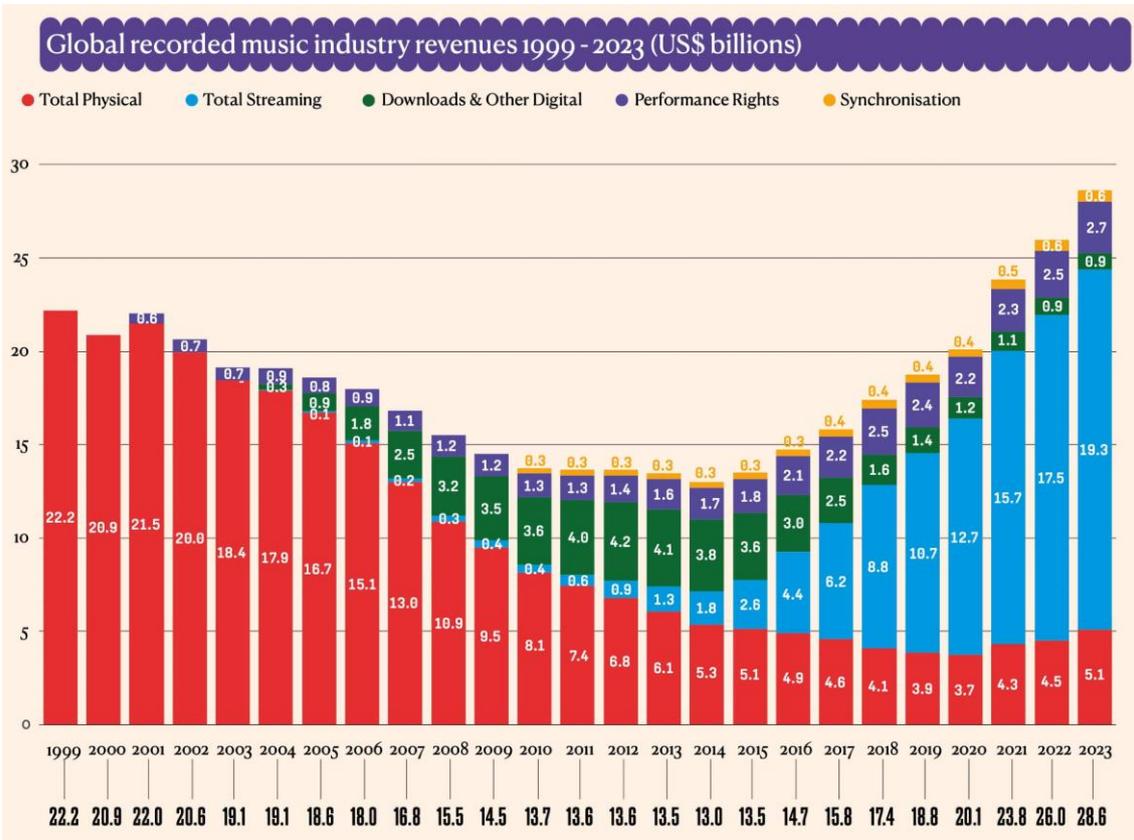
Recently, the music market is expanding more and more, and there are some studies about popular songs. But nobody has studied the introduction of them. So, we researched and analyzed them. As a result of it, we revealed that there are some trends in them.

1 研究背景と研究目的・意義

1.1 研究背景

近年、音楽市場は拡大の一途をたどっており、2023年における世界の音楽市場の売り上げは前年に比べて10.2%増加し、286億ドルとなった（IFPI、2024）。この前年比成長率はIFPIの統計開始以来2番目の伸び幅となっており、また9年連続となるプラス成長であることから、音楽市場の拡大が顕在化している（図0）。これは、社会における音楽市場ひいては音楽そのものの重要性が大きくなっていることを如実に表している。

図0：音楽市場における売り上げの変遷（IFPI Global Music Report 2024より引用）



1.2 リサーチクエストと先行研究・事例

我々は、「流行曲のイントロについて、傾向が存在しているのか」をリサーチクエストに据え、研究を行った。先行研究において、流行曲に関する傾向としては

- ・2000年以降、男性ボーカルでミドルテンポの楽曲から、女性ボーカルでハイテンポの楽曲に移行している。ただし、バラード&バンドグループには、幅広い年代の楽曲があり、この特徴に関係ある楽曲は時代に関係なくヒットしやすいと推察される（宮田香月 赤木茅 江草遼平 寺野隆雄，2023）。

- ・どの年代も歌詞の分析に基づく感情の分布および音楽的な変化は、いずれも社会背景と関係性があった。（田川あい，2022）

などが挙げられていたが、流行曲のイントロに関する傾向や特徴について記述された先行研究を発見することはできなかった。本研究によって、流行曲についての分析をより深めることが期待される。

1.3 研究目的・意義

この研究における研究目的は、

- ・流行曲のイントロの傾向について、どのようなものが認められるか
- ・流行するか否かについてかかわる外的要因にはどのようなものがあるか

を明らかにすることである。

意義としては、次に流行する可能性の高い曲の推定に寄与することで、CM ソングやドラマ・映画のテーマソング等の起用に関しての参考資料となりえることが挙げられる。

1.4 仮説とその根拠

我々は、「近年の流行曲のイントロはなくなる傾向にある」という仮説を立てた。ストーリーミングサービスの普及によって、一部の人々は聞く楽曲をサビやそれに類する部分を判断材料にするようになった。つまり、イントロを飛ばして聞く人が多くなり、それはイントロでのインパクトをあまり必要としなくなってきたことを示唆している。以上の推察された傾向から、作曲者が従来 of イントロの形態にとらわれず、自由にイントロを製作するような風潮が生まれ、イントロが多様化するようになったことでイントロ自体が存在しない楽曲も目立つようになるのではないかと考察したためである。

2 研究方法 1 直近8年間の流行曲のイントロについての調査

2.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

直近8年間の流行曲の「イントロ」の傾向を調査する。また、その調査によって得られた傾向から次に流行する可能性の高い曲を推測し、より大衆に受容されやすい楽曲づくりに生かすことを目指す。

2.2 研究と分析方法

①Mora・JOYSOUND・TOWER RECORDS MUSIC・Billboard JAPAN・Apple Music、以上5つのストーリーミングサイトで公開されている、2016年～2023年間の各年の邦楽の流行ランキングにおいて、上位十曲にランクインしている楽曲をまとめる。

②まとめた楽曲を、イントロの有無、イントロにおける歌唱の有無、イントロがどのパターンに基づいた構成であるか、イントロにおける伴奏の有無、その伴奏の主体となる楽器の種類、などの項目で評価し、得られたデータを年ごとに整理する。

③得られたデータからグラフを作成し、2016年～2023年に流行した楽曲のイントロに特定の傾向を見いだせないか検討する。

2.3 結果

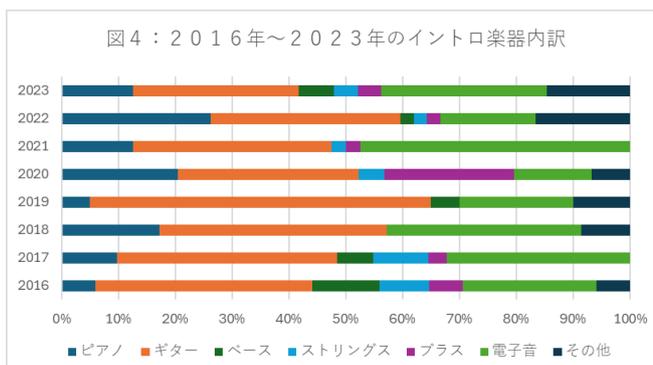
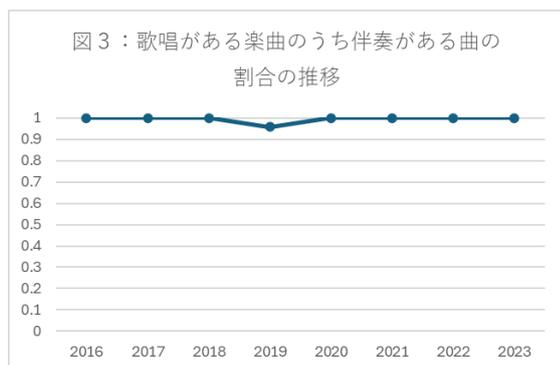
調査した8年間（以下、調査年間 α とする）においてイントロのある楽曲の割合は毎年100%を超えており、現代の楽曲ではイントロのある楽曲のほうが好まれるという傾向があることが判明した（図1）。

また、調査年間 α においてイントロにおける歌唱がある楽曲の割合は、少しずつ増加する

傾向にあることが判明した（図2）。

さらに、調査年間 α におけるイントロでの歌唱がある楽曲では、伴奏を伴う楽曲の割合が常にほぼ100%であることが判明した（図3）。

最後に、イントロに用いられた楽器の内訳も調査したが、特定の傾向を見出すことはできなかった（図4）。



2.4 考察

以上から、調査年間 α におけるイントロのある楽曲の割合は高い水準で推移しており、イントロのある楽曲には近年において恒常的な人気があると予想される。また、近年の流行として、イントロは楽器だけの演奏ではなく歌唱もある傾向が大きく、それはそのまま音楽を聴く人全体の需要の大きさを示唆している。さらに、イントロに伴奏を伴う楽曲も、イントロのある楽曲と同じく恒常的な人気があることが予想される。ただ、伴奏にどの楽器を用いるかについては音楽を聴く人になかなか意識されず、あまり重要ではないと予想される。

3 研究方法2 1990年代の流行曲のイントロについての調査・及び【研究方法1】の結果との比較

3.1 研究の目的とリサーチクエスチョン・仮説との関係

研究方法1では、2016～2023年という調査年間における流行曲のイントロについて調査し、傾向を見出した。この得られた結果をさらに深めるため、一世代前の楽曲についても同様の研究を行うことにした。2つの調査を統合することで研究に厚みを出そうと試みた。

3.2 研究と分析方法

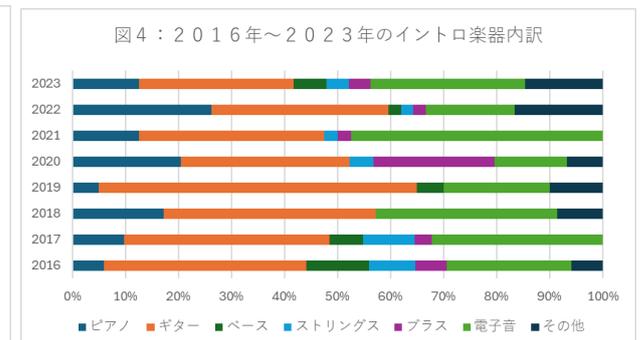
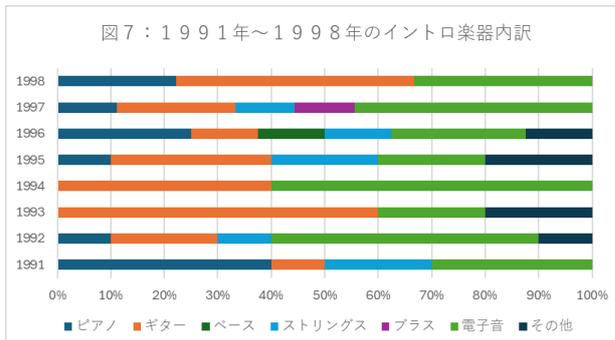
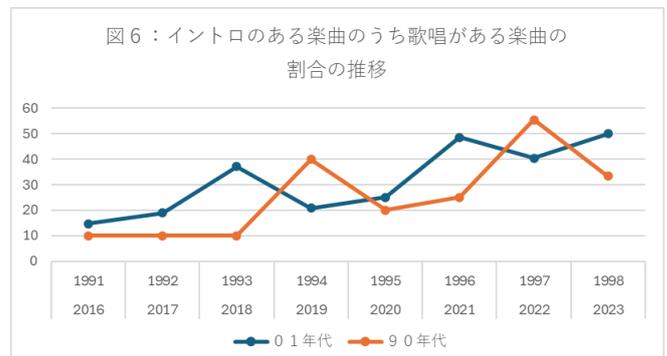
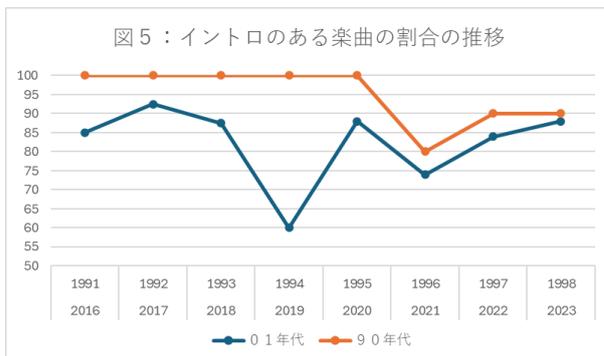
情報源を 1991～1998 年における各年の CD 売り上げ枚数に変更したうえで、売り上げ枚数上位十曲の楽曲をまとめ、研究方法 1 と同様にして研究を行った。また、研究方法 1 で得られた結果と比較することで相違点や共通点を見出した。

3.3 結果

調査した 8 年間（以下、調査年間 β ）においてイントロのある楽曲の割合は毎年 80% を超えており、1991 年～1995 年までは上位十曲の全てにイントロが伴っていることが判明した。調査年間 α と調査年間 β を比較すると、調査年間 β の方の割合が高い傾向にある他、6 年目で一時的に割合が減少するという共通点が見られた（図 5）。

また、調査年間 α と同様に、調査年間 β においてもイントロにおける歌唱がある楽曲の割合は、少しずつ増加する傾向にあることが判明した（図 6）。

さらに、イントロに用いられた楽器の内訳を調査したところ、調査年間 β の中では特定の傾向を見出すことができなかった。調査年間 α と調査年間 β を比較しても、特定の傾向を見出すには至らなかった（図 7・図 4）。



※図 4 は前頁から再掲

3.4 考察

以上から、調査年間 β におけるイントロのある楽曲の割合は調査年間 α よりも僅かに高い水準で推移しており、イントロのある楽曲には 1990 年代においても恒常的な人気がある

あったと予想される。また、伴奏にどの楽器を用いるかについては調査年間 α と調査年間 β の両者でほとんど変化がなく、流行曲の要素としてはあまり重要ではないと判断できる。さらに、イントロにおける歌唱がある楽曲の割合はどちらの調査年間でも上昇していることが読み取れたが、調査年間の空白である1999年～2015年間の推移の様子を調査していないため、この上昇の原因が一時的な事象によるものなのか長期にわたる事象の一部を切り取ったものによるのかが判断できず、要因の特定には至らなかった。

4 結論と今後の展望

4.1 結論

以上から、2016～2023年と1991～1998年における流行曲について、イントロのある楽曲の割合はどちらも高い水準で推移していることから、イントロのある楽曲には恒常的な人気があると予想される。また、イントロは楽器だけの演奏ではなく歌唱も伴っている傾向が大きく、それはそのまま音楽を聴く人全体の需要の大きさを示唆している。ただ、伴奏にどの楽器を用いるかについては音楽を聴く人になかなか意識されず、あまり重要ではないと判断できる。

4.2 今後の展望

調査年間 α と調査年間 β に挟まれた空白期間である1999～2015年におけるイントロの傾向を調査することで、二つの調査年間の比較から導かれた結論の補強を行う。その上で、近年の流行曲のイントロを総合的に考察し、今回得られた結果の裏付けや新たな傾向発見に取り組んでいく。

5 引用文献・参考文献

・IFPI(2024)

「IFPI Global Music Report:Global Recorded Music Revenues Grew 10.2%In 2023」

<https://www.ifpi.org/ifpi-global-music-report-global-music-revenues-grew-10-2-in-2023>

2024/7/4

・大阪教育大学附属天王寺中学校(2022)

「歌の流行傾向から見る時代の移り変わり」

https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/tennoji-j/wp-content/uploads/sites/4/2023/4/47_11.pdf.

2024/7/4

・mora

<https://mora.jp/ranking?term=lrank24&genre=all>

2025/6/4

- Bill board

JAPAN Charts | Charts | Billboard JAPAN

<https://billboard-japan.com/charts/>

2025/6/4

- Apple music

<https://music.apple.com/jp/new>

2025/6/4

- TOWER RECORD

<https://music.tower.jp/playlist/detail/6425>

2025/6/4

- JOY SOUND

<https://www.joysound.com/web/>

2025/6/4

- CD ヒットチャート

<https://nendai-ryuukou.com/1990/song.html>

2025/6/4

- 田川あい(2022)

「歌の流行傾向から見る時代の移り変わり」

<https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/tennoji-j/wp-content/uploads/sites/4/2023/04/47-11.pdf>

2025/6/4

- 宮田香月 赤木茅 江草遼平 寺井隆雄(2023)

「ヒットチャートと楽譜データに基づく日本の年代別流行曲のクラスタリング」

https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsaisigtwo/2023/BI-022/2023_24/_pdf/-char/ja

2025/6/4